

主な行事

正月一日より八日修正會

毎日三座 修毘沙門天王供

元旦 禮拜講

二日 鬼難會

三日 初夜座 後夜座

八日 牛玉法

毎月三日 月例祭

正月十五日 どんと祭

二月第一日曜日 節分會

旧三月三日 春季大祭

旧九月三日 秋季大祭

十二月二日 毘沙門様御年越祭

十二月十七日 觀音様御年越祭

十二月二十日 辨天様御年越祭

十二月二十八日 御不動様御年越祭

十二月三十一日 毘沙門天王護摩供

東北古代史の英雄
さかのうのたけのこ

坂上田村麿公を顕彰する

この頃征夷大將軍坂上田村麿公を中央からの侵略者、悪路王こそそれに抗した郷土の英雄とする考えがあるが、これはおかしい。達谷に傳わる「龍姫」や「姫待瀧」、
「磐石」等の傳説では、悪路王に苦しめられる民草を救うのが大將軍なのである。昔から苦しめられる側であった民草は救う人に心を寄せ、大將軍を毘沙門天王の化身として信仰して来たのだ。大將軍創建の社寺、大將軍の傳説はこの東北に星の数程ある。

當に大將軍こそ東北古代史の英雄であろう。達谷窟毘沙門堂は大將軍と悪路王傳説の發祥地であり、日夜心を込め「南無田村大將軍」と唱えている。來たる平成十二年は征夷千二百年、そして創建千二百年の記念すべき年である。心から蝦夷征伐と毘沙門堂の創建を祝し、重ねて大將軍の事跡を顕彰したいと考える次第である。

「南無田村大將軍」

合掌 別當常住

ね

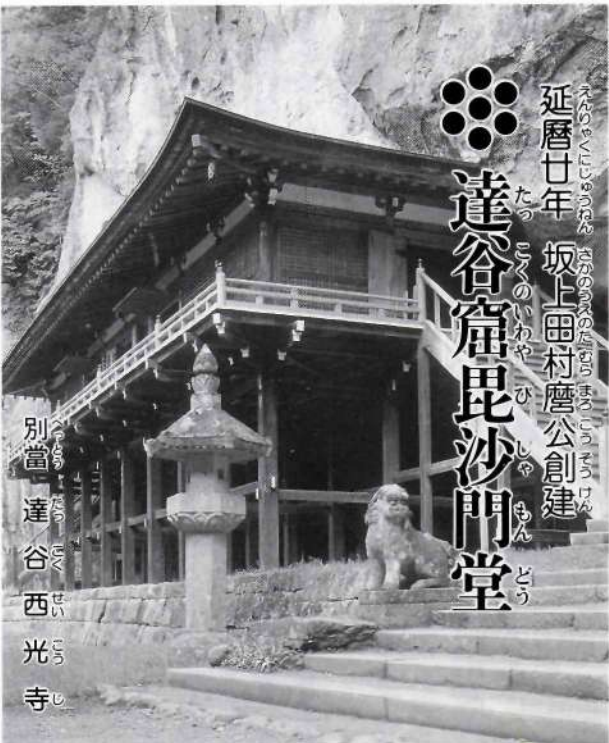
ごきとうけたまわりそうろう
○御祈禱承候

別當 達谷西光寺

〒029-41

岩手県西磐井郡平泉町平泉字北澤16番地
TEL・FAX 0191 (46) 4931
TEL 法話 0191 (46) 5037

◎許可なく境内諸堂諸佛及び縁起等の掲載を禁ずる



達谷窟毘沙門堂

延暦廿年 坂上田村麿公創建

別當 達谷西光寺

征夷大將軍坂上田村麿公の創建を傳える達谷窟毘沙門堂の境内は御神域として古くから殺生禁斷地とされ、動植物の採取や烟草・飲食等の行為、犬猫を供つての參詣は堅く禁じられて居ります。拜觀は參拜の順路に従い、案内書を御覽の上參拜なされます様御勸め申し上げます。

別當常住

ね

達谷窟毘沙門堂縁起

約そ千二百年の昔、悪路王・赤頭・高丸等の蝦夷がこの窟に塞を構え、良民を苦しめ女子供を掠める等乱暴な振舞が多く、國府もこれを抑える事が出来なくなつた。そこで人皇五十代桓武天皇は坂上田村麿公を征夷大將軍に命じ、蝦夷征伐の勅を下された。對する悪路王等は達谷窟より三千余の賊徒を率い駿河國清美關まで進んだが、大將軍が京を發するの報を聞くと、武威を恐れ窟に引き返し守を固めた。延暦二十年（八〇一年）大將軍は窟に籠る蝦夷を激戦の末打ち破り、悪路王・赤頭・高丸の首を刎ね、遂に蝦夷を平定した。大將軍は、戦勝は毘沙門天の御加護と感じ、その御禮に京の清水の舞台を模ねて九間四面の精舎を建て、百八牀の毘沙門天を祀り、國を鎮める祈願所として窟毘沙門堂（別名を窟堂）と名付けた。そして延暦二十一年（八〇二年）には別當寺として達谷西光寺を創建し、奥眞上人を開基として東西三十余里、南北二十余里の廣大な寺領を定めた。

降つて前九年後三年の役の折には源頼義公・義家公が戦勝祈願の爲寺領を寄進し、奥州藤原氏初代清衡公・二代基衡公が七堂伽藍を建立したと傳えられる。文治五年（一一八九年）源頼朝公が奥州合戦の歸路、毘沙門堂に參詣され、その模様が「吾妻鏡」に記されている。中古には七郡の太守葛西家の尊崇厚く、延徳二年（一四九〇年）の大火で焼失するが、直ちに再建された。戦國時代には東山の長坂家より別當が赴き、多くの衆徒を擁したが、天正の兵火に罹り、岩に守られた毘沙門堂を除き、塔堂樓門悉く焼失した。慶長二十年（一六一五年）伊達政宗公により毘沙門堂は建て直され、爾來伊達家の祈願寺として寺領を寄進されてきた。

昭和二十一年隣家から出火。御本尊以下二十數牀を救い出したが毘沙門堂は全焼した。昭和三十六年に再建された現堂は創建以來五代目となる。内陣の奥に慶長二十年伊達家寄進の厨子を安置し、慈覺大師作と傳える御本尊・吉祥天・善膩子童土を秘佛として納める。次の開帳は平成二十二年となる。毎月三日の月例祭・春秋の大祭を始め多くの祭事があるが、特に正月一日から八日迄行われる修正會は慈覺大師から恵海大和尚が傳え、千余年も続く神事である。

岩面大佛

窟毘沙門堂西方の約十丈（約三十三m）にも及ぶ大岩壁に刻まれた磨崖佛は、前九年後三年の役で亡くなった敵味方の諸靈を供養する爲に陸奥守源義家公が馬上より弓張を以て彫り付けたと傳えられている。この大佛は高さ五十五尺（約十六・五m）、顔の長さ十二尺（約三・六m）肩幅三十三尺（約九・九m）全國で五指に入る大像で、「北限の磨崖佛」として名高い。元祿九年（一六九六年）の記録に「大日之尊體」（岩大日）その後

岩大佛と記され、現在は岩面大佛と呼ばれている。猶、尊名は岩大日の記録から大日如來とする考えもあるが、拙寺では昔から阿彌陀佛の名號を唱えており、戦死者追善の傳説からも阿彌陀如來とするのが正しいと思われる。その証左として岩面大佛の下に立つ「文保の古碑」（一一三七年）には阿彌陀の種子である「𑖀𑖄𑖔𑖚」が刻まれている。

明治二十九年に胸から下が地震により崩落し、現在も磨滅が進んでおり早急な保護が叫ばれている。

蝦蟇ケ池辨天堂



内陣右壇



蝦蟇ケ池辨天堂

窟毘沙門堂前庭の池を蝦蟇ケ池と云う。昭和六十年の調査で蝦蟇ケ池旧護岸から平安末期のかわらけが大量に発掘された。この池の中島に祀られる八時の辨才天は慈覺大師の作と伝えられ、昭和二十一年の大火にも焼失を免れ、「生けるが如し」と称される美しい御姿で名高い。巳年生れの守本尊で、その使の蛇を拙寺では大切に保護している。



姫待不動堂

悪路王等は京から攫つて來た姫君を窟上流の「籠姫」に閉ぢ込め、「櫻野」で暫々花見を楽しんだ。逃げようとする姫君を待ち伏せした瀧を人々は「姫待瀧」と呼び、再び逃げ出せぬよう姫君の黒髪を見せしめに切り、その髪を掛けた石を「髻石」と云う。

姫待不動尊は智証大師が達谷西光寺の飛地境内である姫待瀧の本尊として祀つたものを、藤原基衡公が再建した。しかし年月を経て堂宇の腐朽が著しい爲、寛政元年（一七八九年）當地に移された。桂材の一木彫で全國でも希なる大師様不動の像である。製作年代は平安後期で、岩手県有形文化財に指定されている。猶不動尊膝前に祀られていた獅子頭は向つて右が室町時代、左が江戸時代の作で達谷村の獅子舞に使われたものである。



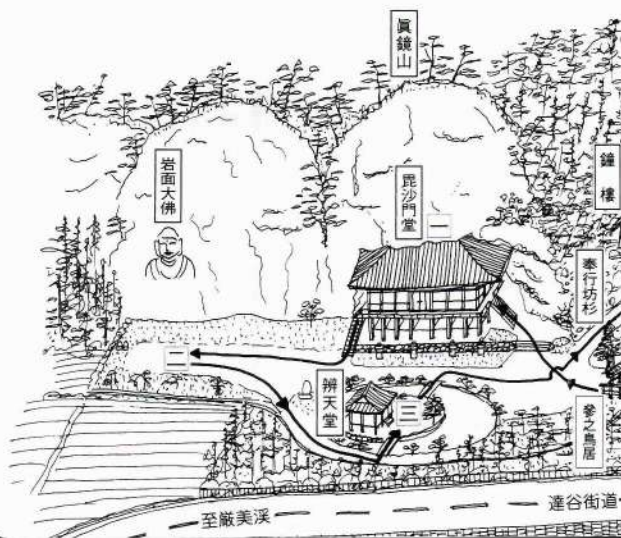
金堂

古くは講堂と呼ばれ、延暦二十一年（八〇二年）に達谷川對岸の谷地田に建てられたが延徳二年（一四九〇年）の大火で焼失した。江戸時代には現在地に建てられた客殿が金堂の役割を果たしていたが、明治初年に排佛毀釋で破壊された。昭和六十二年に再建に着手し、平成八年に完成した。桁行五間梁間六間の大堂で、後古に技を伝える爲、昔ながらの工法を用いて作られた。本尊は眞鏡山上の神木の松で刻まれた四尺（約一二〇cm）の薬師如来である。



寛政元年（一七八九年）

達谷窟毘沙門堂境内



案内書

毘沙門堂

毘沙門様は寅年守本尊。惡鬼を降し福を招く、財寶、官位・智慧・壽命の他に縁結・子寶・學業成就。また軍神の故勝負事等の必勝祈願、諸々の願が叶うと云われる。昔より繪馬を奉納するといとされる。柏手を打って祈るもよし。合掌して「ランベイスラマナヤソハカ」と御眞言を唱えるもよし。

岩面大佛

大佛様は極樂の佛様。萬靈供養の爲、合掌して「南無阿彌陀佛」の名號を唱えとよし。

辨天

辨天様は巳年守本尊。技藝・福德・智慧の神。「辨天には錢上げて拜め」といわれる金運商売の神である。仲良き男女は共に参らぬ事。格氣な天女の前で縁結を願うと逆に縁切になる。柏手を打って祈るもよし。「ランウギヤジャヤゲルベインハカ」と御眞言を唱えるもよし。

不動堂

御不動様は酉年守本尊で厄除の不動様。劍を奉納するとい。火伏・眼病の神様。閻伽堂の水で眼を洗うとよい。また生涯一度の大願が叶うとされる。柏手を打って祈るもよし。「ナマサマダバサランセムダマカロシヤナソハタヤウムタラタカムマン」と御眞言を唱えるもよし。

金堂

御薬師様は御神木の松で刻まれた松薬師。名の通り悩める衆生を待つ御薬師様である。身體堅固・當病平癒・延命長壽の他、諸々の願いが成就する。「ランコロコロセムダリマトウギソハカ」と御眞言を唱えて祈るとよし。